

令和5年度 2学年 家庭総合 シラバス

使用教科書名(出版社)															
家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍 家総701)															
教科	科目	単位数			学科等										
家庭	家庭総合2年	4			全日制・2年										
科目 目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。														
	評価の観点(科目)														
知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度										
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し実践しようとする。										
月	時数	単元名・項目名	学習指導要領	教科書頁	配当時数	時数計	学習のめあて	備考(学習活動の特記事項、他教科との関連等)	課題・提出物等	重点的に評価する	知	思	態		
4月	1	家庭科の学び方 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ・家庭科の学び方	A~D	見返し1-2	1	2	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	・学校全体の教育活動と関連させる。 ・地域の社会福祉協議会等と連携させる。 ・ホームプロジェクトにつながるよう、生活から課題を見つけることを常に意識させる。 ・ホームプロジェクトは長期休み等にも実施する。	・レポート ・ワークシート ・学習ノート ・実験・実習レポートなど	○	○	○			
	2	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	D	4~9	1										
4月	3	第1章 生涯を見通す	A(1)	10~15	2	3	・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	・今までの自分を客観的に振り返らせる。 ・「18歳成年時代」の自立について特に考えさせる。 ・ライフコースの参考になる各種例や資料を示し、集めさせる。 ・(SDGsとの関連)1, 8, 10~12, 17 ・(連携)社会福祉協議会, NPO法人等, 学校家庭クラブ活動等	○	○	○	○	○		
	4	1 人生を展望する					・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。								
	5	2 目標を持って生きる					・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。								
5月	6	第9章 経済生活を営む	C(2)	230~233	2	15	・毎日生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。	・実生活の家計の収支を認識させる。 ・日常のユースから実際に起こっている消費者問題を集めさせる。 ・消費者市民社会の一員として、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~5, 7~10, 12~17 ・(連携)NPO法人, 金融機関, 学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合, 公共, 政治・経済, 情報 I	○	○	○	○	○		
	7	1 情報の収集・比較と意思決定					・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるように、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。								
5月	8	2 購入・支払いのルールと方法		234~237	3		・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。								
	9	3 消費者の権利と責任		238~241	2		・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。 ・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。								
6月	10	4 生涯の経済生活を見通す		242~243	2		・持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。	・日常生活から持続可能性に関わる問題を考えさせる。 ・持続可能な社会を構築するために、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~17 ・(連携)NPO法人, 学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 6~9, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合, 歴史総合, 日本史探 ・発表形式や時期を工夫する。	○	○	○	○	○	○	
	11	5 家計をマネジメントする		244~249	5		・日常生活から持続可能性に関わる問題を考えさせる。 ・持続可能な社会を構築するために、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~17 ・(連携)NPO法人, 学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 6~9, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合, 歴史総合, 日本史探 ・発表形式や時期を工夫する。								
6月	12	6 これからの経済生活	C(3)	250~251	1		・日常生活から持続可能性に関わる問題を考えさせる。 ・持続可能な社会を構築するために、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~17 ・(連携)NPO法人, 学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 6~9, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合, 歴史総合, 日本史探 ・発表形式や時期を工夫する。	○	○	○	○	○	○	○	○
	13	第10章 持続可能な生活を営む	C(3)	252~255	2	3	・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。								
7月	14	1 持続可能な社会を目指して						256~259	1		・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	○	○	○	○
	15	2 一人一人の力で社会を動かす		256~259	1		・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。								
9月	16	巻頭・各章末 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ・生活に生かそう ・各章末「ホームプロジェクト」	D	4~9	1	1	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。	・ライフスタイルの多様性や課題について、新聞記事等で実例を示し、集めさせる。 ・(SDGsとの関連)1, 3~5, 8, 10, 16, 17 ・(連携)社会福祉協議会, NPO法人等, 学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 3~8, 10~11章 ・(他教科・科目関連)倫理, 公共, 政治・経済, 保健	○	○	○	○	○	○	○
	17	第2章 人生をつくる	A(2)	20~27	4	11	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。								
9月	18	2 家族・家庭を見つめる		28~35	4		・身近な高齢者と接触する機会を持つ。 ・視覚教材を活用する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・(SDGsとの関連)1, 3, 5, 8~11, 17 ・(連携)高齢者施設, 社会福祉協議会等, 学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 5~8, 10~11章 ・(他教科・科目関連)公共, 政治・経済, 保健	○	○	○	○	○	○	○	○
	19	3 これからの家庭生活と社会		36~41	3		・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。								
10月	20	第3章 子どもと共に育つ	A(3)	44~47	3	18	・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。	・視覚教材を活用する。 ・子どもに関する情報を調べさせる。 ・(SDGsとの関連)1~5, 8~12, 16, 17 ・(連携)幼稚園, 保育所, 認定こども園, 小学校, 学童クラブ, 社会福祉協議会等, 学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 5, 6~8, 10~11章 ・(他教科・科目関連)公共, 政治・経済, 生物基礎, 保健	○	○	○	○	○	○	○
	21	2 子どもの育つ力を知る													
10月	22	3 子どもと関わる		56~61	5		・これからの超高齢社会の課題を理解する。 ・自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考えて実践しようとする。	・(SDGsとの関連)1~4, 7~17 ・(連携)社会福祉協議会, NPO法人等, 学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 3~4, 10~11章 ・(他教科・科目関連)公共, 倫理, 政治・経済, 科学と人間生活, 地学基礎, 保健	○	○	○	○	○	○	○
	23	4 子どもとの触れ合いから学ぶ		62~65	3		・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていかねばよいか、考えて実践しようとする。								
11月	24	5 これからの保育環境		66~73	3		・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていかねばよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	○	○	○	○	○
	25	第4章 超高齢社会を共に生きる	A(4)	76~79	2	12	・身近な高齢者と接触する機会を持つ。 ・視覚教材を活用する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・(SDGsとの関連)1, 3, 5, 8~11, 17 ・(連携)高齢者施設, 社会福祉協議会等, 学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 5~8, 10~11章 ・(他教科・科目関連)公共, 政治・経済, 保健								
11月	26	1 超高齢・大衆長寿社会の到来						80~85	4		・これからの超高齢社会の課題を理解する。 ・自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考えて実践しようとする。	○	○	○	○
	27	2 高齢期の心身の特徴		86~89	4		・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていかねばよいか、考えて実践しようとする。								
12月	28	3 高齢者の自立を支える		90~91	2		・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていかねばよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	○	○	○	○	○
	29	4 これからの超高齢社会		94~95	1		・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていかねばよいか、考えて実践しようとする。								
12月	30	第5章 共に生き、共に支える	A(5)	96~97	2	5	・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていかねばよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	○	○	○	○	○
	31	1 私たちの生活と福祉													
1月	32	2 社会保障の考え方		94~95	1		・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていかねばよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	○	○	○	○	○
	33	3 共に生きる		96~97	2		・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていかねばよいか、考えて実践しようとする。								
1月	34	3 共に生きる		98~103	2		・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていかねばよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	○	○	○	○	○
	35	3 共に生きる		98~103	2		・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていかねばよいか、考えて実践しようとする。								

令和5年度 3学年 家庭総合 シラバス

豊見城高等学校

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	家庭や地域の生活課題を主体的にとらえ、解決するための力（能力・知識・技能）を育てる。また、グループ活動を通して、生活の充実向上を図るための、実践的な態度を育てる。
使用教科書・副教材等	家庭総合（東京書籍）、生活ハンドブック（第一学習社）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等 年間2単位（70時間） **第3学年**

評価の観点のポイント：a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

学習内容	月	学習のねらい・目標	備考	考查範囲
第6章 食生活をつくる 1. 食生活について考える 2. 食事と栄養・食品 3. 食生活の安全と衛生 4. 生涯の健康を見通した食事計画 5. 調理の基礎	4	・日常の食生活を振り返る。	・小中学校での学習内容との系統性 ・食品成分表の見方を指導し活用する。 ・食品の1日の摂取量を実物や見本などで示し、具体的に把握させる。 ・実習の計画性・安全性にじゅうぶん配慮する。 ・健康な生活の維持には食生活が重要なことを、実験・実習を通して実感させる。	一学期期末考査
	5	・日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。		
	6	・食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。		
	7	・食事摂取量や食品群別摂取量の目安を知り、自分の家族に当てはめる。		
	7	・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ・食生活の自立に必要な基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。		
【課題・提出物等】 レポート，ワークシート，課題プリントなど提出				

学習内容		月	学習のねらい・目標	備考	考查範囲
二 学 期	6. 食生活と文化	9	<ul style="list-style-type: none"> 日本や地域の食文化を見直し、食文化を主体的に継承できるようになる。 生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。 食物を科学的に理解し、地域の食文化や各自の食生活を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科で学んだことを活かし、生活での問題を見つけ、実践活動を行い生活の向上に役立てられるようにする。 視聴覚教材の活用 子育て新聞作成 赤ちゃん抱っこ体験(保育人形) 	二 学 期 期 末 考 査
	7. これからの食生活	10			
	第2章子どもと共に育つ		<ul style="list-style-type: none"> 出産前後の健康管理と子どもの発達の様子および発達段階を知る。 人生の初期における親・家族や周囲の人々との関わり大切さを学ぶ。 遊び、基本的生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。 子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。 児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 		
	1. 命を育む	11			
	2. 子どもの育つ力を知る	12			
3. 親として共に育つ					
4. 子どもとの触れ合いから学ぶ					
5. これからの保育環境					
【課題・提出物等】					
・レポート、ワークシート、課題プリントなど提出					

学習内容		月	学習のねらい・目標	備考	考查範囲
三 学 期	第8章 住生活をつくる	1	<ul style="list-style-type: none"> 住居の機能を考える。 平面図の基礎知識を得て、間取りが理解できるようにする。 ライフステージに合った住居を考える。 住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を学ぶ。 バリアフリーの考え方を理解し、身につける。 気候風土に応じたさまざまな住様式が存在することを学ぶ。 住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅広告や住宅情報誌、インターネットなどを活用する。 住まいに対するイメージを広げる。 ライフステージごとの住居の改造、特に高齢期について考えさせる。 	
	1. 住生活について考える	2			
	2. 住生活の計画と選択	3			
	3. 住生活の文化				
4. これからの住生活					
【課題・提出物等】					
・レポート、ワークシート、課題プリントなど提出					
【年間の学習状況の評価方法】					
①授業へ積極的に参加し、グループで協力して活動できる。また、提出物を全て提出し作品は丁寧に仕上げている。					
②根拠を持って意見をまとめることができる。また、それをグループや個人で発表できる。					
③教科書や資料集から内容を読み取り、グループ活動ができる。授業で学んだ基礎的・基本的な技術を家庭で応用できる力を身に付けることができる。					
④授業で学んだ知識を実験・実習での取り組みに生かすことができる。また、定期考査に十分な点数が取れている。					

令和5年度 保育セミナー（3学年選択） シラバス

教科名	家庭	科目名	保育セミナー	単位数	2単位
科目の分類	選択必修	履修	3学年		
科目の目標	実践的・体験的な学習活動を通して、乳幼児の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化などを理解し、子供の発達に応じて適切に関わるための知識と技能を身に付ける。				

2 評価の観点

関心・意欲・態度	実践的・体験的な学習活動を通して、子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的、協働的に取り組むことができる。
思考・判断	保育の意義や、重要性について考え、親や家族、地域の果たす重要性を考察するとともに、子どもとの適切な関わり方について考えることができる。
技能・表現	子どもの発達に応じて適切に関わるための技能・表現を身につけることができる。
知識・理解	乳幼児の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化、親の役割と保育などについての知識を深め、子どもの発達に適切に関わろうとする。

3 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等 年間2単位 第3学年

学期	項目	学習のねらい・目標	備考
1 学期	○保育セミナーを学ぶにあたって ○保育を学ぶ意義や目的、方法、環境について ○保育新聞作り、発表会。 ○保育実習	・授業の内容や心構えを理解する。 ・保育を学ぶ意義や目的、方法、環境について理解する。 ・日頃のニュースや日常生活の中から、子どもに関するテーマを見つけ、新聞作りを行い、発表会を行う。 ・子どもの心身の発達の特性を理解する。また、保育に関する技術向上に向けて実習を行う。 ・月齢に合わせた読み聞かせを実践する。	○新聞作り 発表会 ○絵本読み聞かせ会
	①言語表現 ・月齢に合わせた読み聞かせを実践する。 ②造形表現 ・カレンダー作成 ・絵本づくり、発表会 ・幼児食の調理実習 ・歌（手遊び） ・おもちゃ作り ・地域の保育園等と連携し、保育実を行う。	・季節の行事を折り紙などで表現し、カレンダーを作成する。 ・月齢に合わせた絵本づくりを行い、発表会を行う ・月齢に合わせた食事計画と調理を行う。 ・子どもの文化と遊びの表現活動について理解し、子どもの健やかな発達を促すために必要な保育の技術を身に付ける。 ・自己評価、及び他の作品への評価を行う。	○行事カレンダー作成 ○絵本づくり ○離乳食・幼児のおやつ作り ○歌遊び ○おもちゃ作り ○保育実践 作品をクリスマスプレゼントとして贈呈
3 学期	・グループで発表会を行う。	・学習を通して、保育の重要性について考え、グループで発表会を行う。	○パワーポイント発表会

【評価方法】

- ・基礎的・基本的な技術の定着やその表現を評価するために、提出物や発表方法、生徒相互の評価、自己評価から判定する。（作品、実習記録簿の提出）
- ・授業や実習への参加態度や感想から、何を学んだかを評価する。

【年間の学習状況の評価方法】

- ・生徒のよい点や進歩の状況を、自己評価や生徒同士の相互評価、感想などから判断し、1年間でどのように成長したかを評価する。
- ・家庭や地域の生活を充実向上させるために、問題解決学習をいかに実施し、生活を工夫し判断する能力が高められたかを、発表やレポートから判断する。
- ・知識や技術を自分のものとして獲得したかを、実技で確認する。

